

編集後記

1. 『東京大学百年史』のなかの「部局史」の原稿作成を担当するものとして、社研史編纂委員会が設置されたのは、1974年12月12日のことであった。同委員会は、委員長岡田与好、委員高柳信一、井出嘉憲、柴垣和夫、山本潔、和田春樹、広渡清吾および鈴木一男(事務長)、竹内義信(総務主任)、菊地敏昭(庶務掛長)によって構成され、以後、戦後社会科学の諸分野の動向とそのなかでの社研の役割について自由討議をおこなってきたが、1975年秋に至り、『百年史』中の「部局」史とは別に、独自に『社会科学研究所三十年史』(仮称)を編纂する方針を固めた。
2. 1976年4月、岡田委員長の所長就任にともなう所内人事配置の変更および竹内委員の転出によって、委員会の構成は、委員長柴垣和夫、委員高柳信一、山本潔、毛利健三、和田春樹、坂野潤治、広渡清吾、鈴木一男(事務長)、野溝祐治郎(総務主任)、菊地敏昭(庶務掛長)に変更された。新委員会は、前記の自由討議を継続するとともに、本格的な『社研三十年史』編纂の前提作業として、また1977年春に予定されている「社研創立三十周年記念式典」の記念品として、従来『要覧』の形で不定期に刊行されてきた本研究所の「現況」と、年表ならびに座談会等による「社研30年の概観」とを合体した本小冊子の編集・刊行方針を固め、76年10月の所員会でその了承を得た。小冊子の制作は業務掛が担当することとなり、それにもなつて塚越由夫(業務掛長)、田中みさ子(同掛員)が委員に補充された。
3. 本小冊子の編集に当っては、研究所外の多くの方々から多大のご協力を得た。座談会にご出席いただいた歴代元所長をはじめとするOBの方々、刊行費用に予算措置をとっていただいた本部事務局および割付、装丁にご協力いただいた東京大学出版会の山下正、奈良節夫、小山忠男の三氏には、とくに感謝する次第である。編集委員以外の所員、事務職員からも全面的な協力を得たが、とくに古参の小黒義夫資料雑誌掛長から、研究所の初期の資料の発掘に多大の協力を得たことを記しておきたい。なお、編纂委員会内部の分担としては、主として、「年表」と「共同研究」は山本、毛利、和田が、「座談会」の整理は高柳、坂野、広渡が、それ以外は爾余の各委員が担当した。
4. 本小冊子の記事は「年表」をはじめ原則として1976年末の時点で執筆されているが、以後77年2月末までの事情の変化は可能なかぎり筆を入れた。委員会はこれから本格的に『社研三十年史』の編纂作業にとりかかる予定であるが、本小冊子にあるやもしれぬ誤記等の指摘をふくめて、関係各位のご協力をお願いする次第である。

1977年3月

東京大学社会科学研究所
社研史編纂委員会